

優勝 つなぐ野球で逆転

リードを奪われたまま終盤に入ってからのおねばり

川崎市立立川崎高等学校定時制
軟式野球秋季大会

夕手スポ

橘高等学校定時制
運動部通信
2017.9.27
第40号

9月16日 桜川球場

連覇

昨年二十三年ぶり再結成から三年目の秋に優勝を果たし、連覇を目標に臨んだ今大会。

目標に向かっぴーんーんとなりて向かっぴーん

出場した市立立川崎は、今年大会のチームも毎年県内上位に進む力を持っている。その中で連覇できたのは、この夏の一人一人の成長はもちろんだが、何よりも、持ち味を生かした全員野球で一つになつて戦うことを楽しめたから……。

時間制限のある試合では、一点でもリードし続けることが大事になつてくるが、今大会二試合とも相手にリードを奪われたまま終盤に入つていった。しかし、ベンチの誰も焦つていない様子。はなから多くの練習試合を組み、実践経験を積む中で様々な場面を経験してきた。上手くできないことも多く、自分にとって、チームにとっての課題が明確になり、その課題を一つ一つ克服しようという練習に取り組むことで対応力もついてきた。次の星を狙う意識、判断力、隙をついた走塁の成長と、打席での粘り、積極的なスウィングが、この秋季大会優勝のポイントになっていた。

一人一人の成長がチームを強くし、チームの成長が一人一人をさらに成長させてくれた夏を過ごして迎えた秋の戦い。さらなる成長が期待できる。

川崎地区の四校は、全国大会の予選をへしめ、今年大会の決勝に進出した。橘は、この夏の成長をもちろんだが、何よりも、持ち味を生かした全員野球で一つになつて戦うことを楽しめたから……。

時間制限のある試合では、一点でもリードし続けることが大事になつてくるが、今大会二試合とも相手にリードを奪われたまま終盤に入つていった。しかし、ベンチの誰も焦つていない様子。はなから多くの練習試合を組み、実践経験を積む中で様々な場面を経験してきた。上手くできないことも多く、自分にとって、チームにとっての課題が明確になり、その課題を一つ一つ克服しようという練習に取り組むことで対応力もついてきた。次の星を狙う意識、判断力、隙をついた走塁の成長と、打席での粘り、積極的なスウィングが、この秋季大会優勝のポイントになっていた。

一人一人の成長がチームを強くし、チームの成長が一人一人をさらに成長させてくれた夏を過ごして迎えた秋の戦い。さらなる成長が期待できる。

一人二人の成長がチームを強くし、チームの成長が一人一人をさらに成長させてくれた夏を過ごして迎えた秋の戦い。さらなる成長が期待できる。



吉田信太郎 (3年)



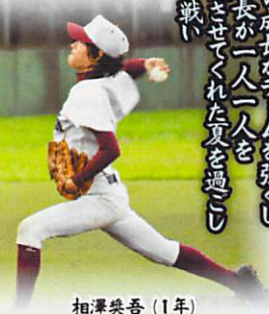
大羽 空 (3年)

二試合ともに守りから攻撃のリズムをつかんだ！



川崎	10060	7	2
橘	02000	2	0
法経	10021	4	7
総合	00106	6	7

決勝戦、三点を追う五回裏の攻撃。時間切れが迫り、この回が最終回になることはわかってきた。1アウトから主将の野村が四球で出塁する。そこから八人の打者が、ヒット、四球、相手エラー等でつながり六点を奪って逆転で優勝を決めた。



相澤 悠吾 (1年)



武田智成 (4年)



谷口 明 (1年)



野村昇吾 (2年)

10月開催の県大会へ
県内5地区から勝ち上がった8チームが10月9日から始まる県大会で激突する。橘の最初の相手は、西湘地区の代表校。

今年も全員野球で戦い、一戦必笑で勝ち取った優勝杯



小俣優斗 (2年)



夏の一人一人の成長、そして何れもチーム力で勝利を手に！



末次和昭 (1年)



岡崎 巧 (2年)



島田 歩 (2年)